

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	レストランサービスⅣ		（ NGH24B ）
講義名（コード）	レストランサービスⅣA		（ NGH24BA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	1
授業担当者	小澤 ゆみ	時間数	30
成績評価教員	小澤 ゆみ	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	2024年ユネスコ世界無形文化遺産に認定された「日本の伝統的な酒造り」について知る その他レストラン業務で必要な知識を理解し、実践することができる
全体の内容と概要	歴史や食材、器の知識をもってサービスができるように和食を基本から学ぶ 多様なお客様に対応できるレストラン業務を実践を通して学ぶ
授業時間外の学修	発表資料の作成
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	日本茶と和菓子について理解することができる	日本茶の種類・産地・銘柄について調べる 和菓子と季節の関係を知り、興味をもった和菓子について調べる
2	日本で作られる酒について理解することができる	世界無形文化遺産に登録された日本の伝統的な酒造りについて知る 日本酒・焼酎・泡盛、その他日本の酒について調べる
3	日本茶と酒について発表することができる	日本茶、酒について調べたことを発表する
4	日本茶と酒のサービスを実践することができる	お菓子の提供・日本茶の入れ方・所作を知り、実践する 日本酒の提供のしかたを知り、実践する
5	日本茶と酒のサービスを実践することができる	実技テスト
6	日本茶と酒のサービスを実践することができる	実技テスト
7	和食に使われる器について理解することができる	和食と器の関係について考え、代表的な器と産地を調べる
8	和食に使われる器について発表することができる	興味を持った器について調べたことを発表する
9	配慮の必要なお客様・緊急対応について理解することができる	車いすや補助犬、急病人や災害への対応について知る
10	クレームへの対応について理解することができる	クレームの受容・報告・謝罪・再発防止の一連の流れを理解し、実践する
11	決済方法について理解することができる	決済方法について知り、実践する
12	中国料理のサービス・マナーについて理解することができる	中国料理のサービス・マナーを知る
13	食の多様化について理解することができる	ハラール・ベジタリアンなどについて知っていることを話し、食の多様性について理解する
14	まとめ	後期期末テスト
15	まとめ	テストフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	特定技能1号外食業技能測定試験学習用テキスト【接客全般】【飲食物調理】【衛生管理】 特定技能1号評価試験宿泊分野学習用テキスト、「ホテルの日本語」
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	宿泊業務Ⅳ		（ NGH24D ）
講義名（コード）	宿泊業務ⅣA		（ NGH24DA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	高木 裕衣	時間数	30
成績評価教員	高木 裕衣	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ホテル・旅館の形態について知り、即戦力の人材を育てる。
全体の内容と概要	宿泊業界・おもてなしについて学び、お客さまのことを考えた接客ができるようになる。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	え、 対応できるようになる①	お客さまとしてのクレームとホテルスタッフとしてのクレームについて考えたうえで、クレーム対応の基本の流れを確認する。
2	え、 対応できるようになる②	クレーム対応時に気をつけることを確認し、ミニテストで理解度を確認する。
3	え、 対応できるようになる③	実際の場面を想定してクレーム対応のロールプレイを行う。
4	り、 説明できるようになる。	日本ならではの慶事、弔事について学び、確認問題を解いて理解度を確認する。
5	顧客満足度の重要性を理解する	接客におけるCS重要性について知る。
6	顧客満足度の重要性を理解する	顧客満足度を上げることの重要性とそのために必要なサービスを考える。
7	顧客満足度の重要性を理解する	顧客満足度を上げることの重要性とそのために必要なサービスを考える。
8	前半で学習したことを実践できる	前半で学習したことの復習テスト
9	さまざまなホテルの形を知ることができる①	ホテルが舞台のドラマを見て、ホテルの裏側を知る。①
10	さまざまなホテルの形を知ることができる②	ホテルが舞台のドラマを見て、ホテルの裏側を知る。②
11	さまざまなホテルの形を知ることができる③	ホテルが舞台のドラマを見て、ホテルの裏側を知る。③
12	さまざまなホテルの形を知ることができる④	ホテルが舞台のドラマを見て、ホテルの裏側を知る。④
13	さまざまなホテルの形を知ることができる⑤	ホテルが舞台のドラマを見て、ホテルの裏側を知る。⑤
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	サービス接遇 検定試験合格テキスト&問題集
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	旅行業務Ⅳ		（ NGH24F ）
講義名（コード）	旅行業務ⅣA		（ NGH24FA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	浅沼 由希	時間数	30
成績評価教員	浅沼 由希	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	旅行会社やホテルなど観光業で活かせる日本各地の観光地の様々な知識を身につける
全体の内容と概要	観光地や日本について満足度の高い丁寧な案内が出来るように実習を行う
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	特になし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期の振り返り	授業の進め方の説明
2	伝わる話し方ができる	ガイドの基本を知る 発声練習
3	伝わる話し方ができる	ガイドの基本を知る
4	都道府県について知ることができる	都道府県の場所の確認
5	日本の観光地について知ることができる	日本の観光地は、どんなところがあるか学ぶ
6	日本の観光地について知ることができる	それぞれの興味がある場所を調べる
7	日本の観光地について知ることができる	調べた場所を発表する
8	旅行プランを作ることができる	興味のある場所を調べる
9	旅行プランを作ることができる	作成した旅行プランを発表する
10	観光地を案内できる	実際に案内する
11	観光地を案内できる	実際に案内する
12	学んだことをアウトプットできる	テーマを決めて調べる
13	学んだことをアウトプットできる	テーマを決めて発表する
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	独自資料
参考文献・資料等	観光地のパンフレット
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	観光マーケティング実践Ⅱ		（ NGH24H ）
講義名（コード）	観光マーケティング実践ⅡA		（ NGH24HA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	1
授業担当者		時間数	30
成績評価教員	横内 和加	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	Instagramを使った観光情報発信の実践力を育成。インスタの基礎構築から企画立案などを通じて、表現力とマーケティング視点を養う。観光現場でSNS運用を任せられる基礎力を習得する。
全体の内容と概要	Instagramを活用した観光PRの手法を、実際にアカウントを運用しながら習得。プロフィール作成、投稿企画、表現、DM対応など、観光業で役立つSNS活用スキルを総合的に学ぶ。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	ハイライト作成・集客導線を構築	S N Sからの他媒体への導線を学び、構築する
2	ハイライト作成・集客導線を構築	効果的なストーリーズの運用を学び、フォロワーとの関係を構築する
3	DM・コメント対応力を養う	フォロワーとの信頼関係を築くSNS上でのコミュニケーション力を養う
4	キャッチコピーの考え方を知る	印象に残る短い言葉の効果や表現パターンを学び、観光PRに応用する方法を考える
5	キャッチコピーを実際につくる	実際の観光写真や地元の魅力を題材にキャッチコピーを制作し、シェアする
6	ストーリーテリングを知る	体験を伝える構成（起承転結や感情表現）を学び、観光情報への応用方法を理解する
7	ストーリーテリングを実践する	Instagramの投稿としてのストーリー構成を考える
8	ストーリーテリングを実践する	Instagramの投稿としてのストーリー構成を考える
9	イベント企画とPR投稿作成	季節イベントや地域フェアなどを想定し、PR投稿を設計・作成する
10	イベント企画とPR投稿作成	季節イベントや地域フェアなどを想定し、PR投稿を設計・作成する
11	イベント企画とPR投稿作成	撮影素材や投稿文章、告知文などを準備し、アカウントに反映させる
12	イベント企画とPR投稿作成	撮影素材や投稿文章、告知文などを準備し、アカウントに反映させる
13	期末テスト	成果物制作
14	期末テスト	成果物制作・提出
15	フィードバック	テスト内容に関するフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園 専門学校長野ビジネス外語カレッジ

2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	検定試験対策Ⅱ		（ NGH24J ）
講義名（コード）	検定試験対策ⅡA		（ NGH24JA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	前期に引き続き自分のレベルに合わせた資格の取得を目指す 前期合格した学生は、上のレベルの試験に挑戦する
全体の内容と概要	日商PC検定（3級・BASIC）またはMOS検定のうち自分の受験科目を選択し検定対策をする
授業時間外の学修	資格試験受験に向けて、プログラムや模擬問題で繰り返し練習してください
履修上の注意事項等	資格試験の受験はいつでも可能ですので、受験日を意識して学習してください

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4．本授業科目の授業計画				
回	到達目標	授業内容		
1	受験科目を決定し目標を決める MOS検定の問題を確認し理解する	MOS プログラムの操作確認（Word・Excel・PowerPoint 数問ずつ）		
2	受験科目を決定し目標を決める 日商 3 級の問題を確認し理解する	日商PC検定 3 級プログラムの操作確認（Word・Excel・PowerPoint 数問ずつ）		
3	受験する科目の問題を学習して 解答できるようになる	選択した受験する科目のプログラムを練習 MOS・日商PC 3 級・日商PC Basic（Word・Excel・PowerPoint より）		
4	検定受験対策 （科目ごと学習して 解答できるようになる） 日商PC Word Basic 基本的な操作を取得 指示に従った正確なデータ処理 MOS（Word・PowerPoint） 高度な機能を活用し さまざまな目的や状況に応じて 利用環境をカスタマイズできる	Basic（プログラム練習） 模擬1 ビジネス文書作成の基本	MOS Word ・文書の管理 ・文字・段落・セクションの 挿入と書式設定 ・表やリストの管理 ・参考資料の作成と管理 ・グラフィック要素の 挿入と書式設定 ・文書の共同作業の管理 模擬試験プログラムを 活用して学習	MOS PowerPoint ・プレゼンテーションの 管理 ・スライドの管理 ・テキスト・図形 画像の挿入と書式設定 ・表・グラフ・SmartArt 3Dモデル・メディアの 挿入 ・画面切り替えや アニメーションの適用 模擬試験プログラムを 活用して学習
5		Basic（プログラム練習） 模擬2 表を活用した文書作成		
6		Basic（プログラム練習） 模擬3 図形を活用した文書作成		
7		Basic 補足問題 テキスト問題で操作確認		
8	模擬試験プログラムを利用した 検定試験練習 プログラムで練習することにより 実際の試験形式の手順を習得する	資格試験 模擬試験プログラム練習		
9		BASIC 商工会議所サンプルプログラム・FOM出版問題集		
10		MOS FOM出版		
11		Word 365 Expert 対策テキスト&問題集		
12		Excel 365 Expert 対策テキスト&問題集		
13		PowerPoint 365 対策テキスト&問題集 （受験できる学生は検定受験）		
14	まとめと解説	期末テスト		
15	まとめと解説	テスト F B		

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	MOS 対策テキスト&問題集 Basic 日商PC検定試験公式テキスト&問題集（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント 資格試験対策として日商PC検定・MOSの模擬試験プログラムを利用
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	国際理解Ⅱ		（ NGH24L ）
講義名（コード）	国際理解Ⅱ A		（ NGH24LA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	国際的な理解度を高め、異文化に対する知識を習得し、様々な国の人達との円滑かつ効果的なコミュニケーションを行うことができるようになる
全体の内容と概要	世界の国々の歴史や現状をテキストに基づき学ぶとともに、世界的な課題提起「SDG s」の進捗状況などを、グループワーク等を活用して学ぶ
授業時間外の学修	様々な国の方との交流を通じ相互理解を深める
履修上の注意事項等	各授業の最後に確認テストを実施する予定

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	国際的な理解度を高め、異文化に対する知識を習得し、様々な国の人達との円滑かつ効果的なコミュニケーションを行うことができるようになる		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション 学習意図が理解できる	・ 本授業の意図と習得する知識・現段階における知識レベルの把握 ・ SDGs の定義と取り組み背景などを学ぶ
2	SDGsの現状を理解できる	・ SDGs17項目の世界的達成率と主要国の現状 【セルフワーク】出身国の達成状況について調べてみる
3	SDGsの本質を理解できる① (日本の達成率と世界の事例)	・ SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「貧困をなくす」「飢餓をゼロに」
4	SDGsの本質を理解できる② (日本の達成率と世界の事例)	・ SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」
5	SDGsの本質を理解できる③ (日本の達成率と世界の事例)	・ SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「ジェンダー平等を実現しよう」「安全な水とトイレを世界中に」
6	SDGsの本質を理解できる④ (日本の達成率と世界の事例)	・ SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「働きがいも経済成長も」
7	SDGsの本質を理解できる⑤ (日本の達成率と世界の事例)	・ SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「産業と技術革新の基盤を作ろう」「人や国の不平等をなくそう」
8	SDGsの本質を理解できる⑥ (日本の達成率と世界の事例)	・ SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「住み続けられるまちづくりを」「つくる責任使う責任」
9	SDGsの本質を理解できる⑦ (日本の達成率と世界の事例)	・ SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「気候変動に具体的な対策を」
10	SDGsの本質を理解できる⑧ (日本の達成率と世界の事例)	・ SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさをも学ぼう」
11	SDGsの本質を理解できる⑨ (日本の達成率と世界の事例)	・ SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「平和と公平をすべての人に」「パートナーシップで目標を達成しよう」
12	身近な解決策を検討し 発表することができる①	・ SDGs17項目の中から興味を持った項目をピックアップする ・ その項目について身近な解決策を見つけてレポートする
13	身近な解決策を検討し 発表することができる②	・ SDGs17項目の中から興味を持った項目をピックアップする ・ その項目について身近な解決策を見つけてレポートする
14	後期末テスト	後期授業で学んだ内容の確認テスト（筆記・論述）
15	フィードバック・まとめ	テスト結果のフィードバックと回答解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「地図でよくわかる世界の国大百科」「こどもSDGs 達成レポート」
参考文献・資料等	なし
備考	理解を深めるための独自資料を、内容に応じ用意

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	国際観光学Ⅱ		（ NGH24N ）
講義名（コード）	国際観光学ⅡA		（ NGH24NA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	塚川 剛	時間数	30
成績評価教員	塚川 剛	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	前期は、世界各国及び主要都市、観光地の基礎情報をおさえる。後期は、急増するインバウンド対応、異文化理解、宗教、食事制限、LGBTQ、トランスジェンダーなど学ぶ。
全体の内容と概要	日本人の海外旅行趨勢、インバウンドの光と影、その対策に迫られる産管学について理解を深める。学習者が卒業後の国内就労を目指す上で有益な情報源になる内容とする。
授業時間外の学修	人気アニメ、漫画、キャラクター、映画ロケの聖地、コスプレについて調べる。
履修上の注意事項等	インバウンド向けの通訳案内士の経験談等実際の観光現場について披露する。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	インバウンド動向を説明できる (①)	冬季に殺到する豪州北米からのインバウンド客の動向について学ぶ。ニセコ、白馬、湯沢、妙高赤倉のスキー場の現状について学ぶ。
2	インバウンド動向を説明できる (②)	カナダのウィスラー、スイスのサンモーレッツなど信越県境リゾートについて学ぶ。外資ファンドの県内投資について研究する。
3	インバウンド動向を説明できる (③)	冬はスノーモンキー、夏はサムライロードと上高地、修学旅行、展示会、インセンティブツアーがインバウンドの平準化について学ぶ。
4	インバウンド動向を説明できる (④)	新幹線の歴史、敦賀延伸とその先へ、北海道新幹線札幌延伸について学ぶ。リニアモーターカーについて学ぶ。
5	インバウンド動向を説明できる (⑤)	体験型、山岳、医療、クルーズ等多様なツーリズムの誕生について学ぶ。 (茶道、着付け、築地、相撲部屋、寿司づくり)
6	①～⑤まで概略できる。	①～⑤までを復習し、興味を持ったテーマでグループに分かれて発表する。
7	最近の観光動向を説明できる (⑥)	佐渡の世界遺産認定と他の世界遺産について学ぶ。五街道、金の道、塩の道、絹の道を学ぶ。
8	最近の観光動向を説明できる (⑦)	伝統的酒造りのユネスコ無形文化遺産登録と他の世界遺産について学ぶ。山田錦について学ぶ。(日本農業遺産認定)
9	隠れていた観光資源を説明できる (⑧)	日本食全般について学ぶ。(味噌、醤油、味の素、わさび含む) 現在の食文化の源流である江戸時代について学ぶ。
10	観光を支える食材について説明できる (⑨)	日本食の食材と農業(米、野菜、果樹) 漁業畜産業について学ぶ。日本特産のわさびも取り上げる。
11	インバウンド目標について検討できる (⑩)	政府観光庁の2030年までに年間6000万人が可能か検証する。オーバーツーリズムや人出不足解消についてグループ毎に発表させる。
12	その他の国のインバウンド動向について推測できる。 (⑪)	富豪層の嗜好、アジア圏FIT、中華圏の春節や国慶節ツアー、爆買いから体験型、SNS映えを求める傾向など学ぶ。
13	⑥から⑪まで概略できる。	⑥～⑪までを復習し、興味を持ったテーマでグループに分かれて発表する。
14	まとめとテスト	後期で学んだインバウンドの基本的な動向についてテストを実施する。
15	フィードバック	テストの返却、成績や点数への講評、質疑応答。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	るるぶ地図でよくわかる世界の国大百科
参考文献・資料等	観光白書、観光パンフ、新聞切り抜きコピーを随時配布する。
備考	パスポート、搭乗券、乗車券などレリアをできるだけ活用する。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	スピーチ&プレゼンテーションⅡ		（ NGH24P ）
講義名（コード）	スピーチ&プレゼンテーションⅡA		（ NGH24PA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	高木 裕衣	時間数	30
成績評価教員	高木 裕衣	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	パワーポイントを使いながら人前で自分の意見を発表する事ができる。見ている人がわかりやすい説明とビジュアルツールを作成してプレゼンテーションを行い、将来の就職の場で役立たせる。
全体の内容と概要	作成したPPTを使用しプレゼンテーションの練習を行う。PPTを作成する事だけでなく、正しい日本語を使って分かりやすい説明を行えるように話し方の練習もする。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	スピーチとプレゼンテーションの違いの再確認	プレゼンテーションとは何か。どんな場面でどのように使用するのか。例を見ながら正しいプレゼンテーションの方法を学ぶ。
2	プレゼンテーションをする前の準備の方法がわかる	プレゼンテーション作成のステップ、注意する事などを学ぶ。まずは短いプレゼンテーションを作成する。
3	人前で簡単なプレゼンテーションができるようになる	簡単なテーマに沿ったプレゼンテーションを作成する。
4	人前でプレゼンテーションができるようになる	簡単なテーマに沿ったプレゼンテーションをクラスの中で発表する。
5	最近のニュースについて自分の意見をプレゼンする事ができる。	気になるニュースを調べ自分の意見をまとめる。
6	最近のニュースについて自分の意見をプレゼンする事ができる。	気になるニュースを調べ自分の意見をまとめる。
7	最近のニュースについて自分の意見をプレゼンする事ができる。	気になるニュースについて自分の意見をまとめたプレゼンを行う。
8	分かりやすい発表説明文を作成できる。	それぞれが興味があるテーマの写真を集め、その写真についての説明文を作成する。
9	分かりやすい発表説明文を作成できる。	それぞれが興味があるテーマの写真を集め、その写真についての説明文を作成する。
10	写真を使った発表を行うことができる。	写真を見せながら短いプレゼンを行う。クラスメートに評価をもらう。
11	国際問題についての発表を行うことができる。	自分の興味のある現在起こっている国際問題について調べ、現状・問題の原因についてまとめる。
12	国際問題についての発表を行うことができる。	問題についてのデータを検索し、グラフ等を使ってわかりやすくPPTにまとめる。自分の意見を交えた問題の解決法を考える。
13	自分の言葉で表現することができる	時間を測りながら発表練習
14	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 評価
15	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 評価

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	ビジネス日本語Ⅳ		（ NGH24R ）
講義名（コード）	ビジネス日本語ⅣA		（ NGH24RA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者		時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	
全体の内容と概要	
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園 専門学校長野ビジネス外語カレッジ

2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスコンピューティングⅣ		（ NKT24F ）
講義名（コード）	ビジネスコンピューティングⅣF		（ NKT24FF ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	東京コンピューター（株）、東京精電（株） 歴任	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	Excel機能を活用し実務で使われているテンプレートの構成を理解して処理ができるようになる 自分のレベルに合わせた資格の取得
全体の内容と概要	日商PC検定（3級・BASIC）またはMOS検定のうち自分の受験科目を選択し検定対策をする
授業時間外の学修	資格試験受験に向けて、プログラムや模擬問題でくり返し練習してください
履修上の注意事項等	資格試験の受験はいつでも可能ですので、受験日を意識して学習してください

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容		
1	受験科目決定し目標を決める 日商PC検定BASICレベルの理解	BASIC模擬1（3級・MOS受験決定者はプログラム練習） ワークシート入力，編集・グラフの作成・データベース機能の利用		
2	受験科目決定し目標を決める 日商PC検定3級レベルの理解	3級模擬第1回（BASIC・MOS受験決定者はプログラム練習） 知識科目対策・実技科目（基本の機能，操作・データの分析，分類，集計）		
3	受験科目決定し目標を決める MOS検定の問題を確認し理解する	MOS Excel2016模擬第1回（BASIC・3級受験決定者はプログラム練習） 高度な機能を利用したユーザー設定の入力規則や表示形式，関数の利用 分析ツール，グラフ，ピボットテーブルを活用したデータの分析や評価		
4	検定受験対策（科目ごと学習し 解答できるようになる） BASIC	BASIC（プログラム練習） 模擬1 基本の計算式	3級 模擬問題 第1回～3回 知識科目対策問題	MOS 出題範囲問題 模擬問題 第1回～5回
5	基本的な操作を取得 指示に従った正確なデータ処理 3級	BASIC（プログラム練習） 模擬2 グラフの編集	・取引の仕組み 業務データの流れ	・ブックの設定管理 ・高度な機能を使用した 数式の作成
6	実務で必要とされる機能，操作 迅速かつ正確なデータ処理 業務に活かせるデータ分析 MOS	BASIC（プログラム練習） 模擬3 データベース分析	・データベース管理 ・電子商取引ほか ・ビジネスデータ取扱 実技科目対策問題	・高度な機能を使用した グラフ，テーブル作成 ・ユーザー設定の データ表示形式や レイアウトの適用
7	Excelの高度な機能を活用し さまざまな目的や状況に応じて 利用環境をカスタマイズできる	BASIC 補足問題 累計の計算・レーダーチャート	・基本の関数・計算式 ・目的に合わせた グラフ作成・編集 ・データベース分析 集計・分類・管理	模擬試験プログラムを 活用し学習
8	模擬試験プログラムを利用した 検定試験練習 プログラムで練習することにより 実際の試験形式の手順を習得する	資格試験 模擬試験プログラム練習		
9		BASIC 商工会議所サンプルプログラム・FOM出版問題集		
10		3級 商工会議所サンプルプログラム・FOM出版公式テキスト&問題集		
11		MOS FOM出版 Excel 2016 Expert 対策テキスト&問題集		
12		（受験できる学生は検定受験）		
13				
14	まとめと解説	期末テスト		
15	まとめと解説	テストF B		

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	30時間アカデミック Office2021 MOS Excel Expert 対策テキスト&問題集 日商PC検定試験公式テキスト&問題集 3級（貸出）・BASIC（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント 資格試験対策として日商PC検定・MOSの模擬試験プログラムを利用
備考	担当教員はIT業界での実務経験を活かし、Microsoft Office製品各種の操作を体系的に指導する

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	卒業研究		（ NKT24G ）
講義名（コード）	卒業研究G		（ NKT24GF ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	1
授業担当者	高木 裕衣	時間数	30
成績評価教員	高木 裕衣	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	2年間の学びをまとめた卒業発表を完成させる。パワーポイントを使いながら見ている人がわかりやすい説明とプレゼンテーションを行うことができる。
全体の内容と概要	今まで学習したことを振り返り、さらにそれについて知識を深めたり、PPTを使用したプレゼンテーションの練習も行う。
授業時間外の学修	自宅等でも発表練習をする。
履修上の注意事項等	計画的に準備をし、集大成の卒業発表にきちんと間に合わせる。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	卒業発表についての流れを知る。	卒業発表準備についての流れを説明。今までに学習した授業の内容を振り返り、興味のあるテーマをあげてみる
2	自分が興味のあるテーマを探し、発表の内容について具体化できる。	今まで学んだ内容に沿った興味のあるテーマを探す
3	自分が興味のあるテーマを探し、発表の内容について具体化できる。	興味のあるテーマをもとにマインドマップを作成する
4	自分が興味のあるテーマを探し、発表の内容について具体化できる。	作成したマインドマップに沿ってアウトラインを作成する
5	内容についての情報収集ができる。	選んだテーマについての研究、課題抽出、リサーチ等を行う
6	内容についての情報収集ができる。	選んだテーマについての研究、課題抽出、リサーチ等を行い、まとめる
7	選んだテーマについて自分の言葉で説明することができる	研究、リサーチした内容をまとめ、クラスメイトに説明する
8	卒業発表のため今まで学習した知識を更に深く考察することができる	研究、リサーチした内容をまとめ、PPT作成する
9	卒業発表のため今まで学習した知識を更に深く考察することができる	研究、リサーチした内容をまとめ、PPT作成する
10	自分の言葉で表現することができる	PPTを完成させ、発表文を作成する
11	自分の言葉で表現することができる	PPTを完成させ、発表文を作成する
12	自分の言葉で表現することができる	PPT、発表文を完成させる
13	自分の言葉で表現することができる	時間を測りながら発表練習
14	期末テスト	クラス内発表、クラスメイトとFBしあう
15	まとめと解説	PPT見直し、本番前の最終リハーサル

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	日本語コミュニケーションⅣ		（ NKT24K ）
講義名（コード）	日本語コミュニケーションⅣ A		（ NKT24KA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。また、日本人同士のスピーディーな会話を聞き取ることができる。
全体の内容と概要	N1の読解、聴解の対策をしていく。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	実践問題が理解できる1.2 いろいろなタイプの話进行聞こう	読解：統合理解 例題2.6 聴解：指示进行聞こう
2	実践問題が理解できる1.3 いろいろなタイプの話进行聞こう	読解：統合理解 練習6.0 聴解：説明进行聞こう
3	実践問題が理解できる1.4 いろいろなタイプの話进行聞こう	読解：統合理解 練習6.1 聴解：テーマやいいたいことを聞こう
4	実践問題が理解できる1.5 いろいろなタイプの話进行聞こう	読解：統合理解 練習6.2 聴解：まとめ問題
5	実践問題が理解できる1.6 いろいろな語彙や表現を覚えよう1	読解：統合理解 練習6.3 聴解：よく聞くカタカナを覚えよう①
6	実践問題が理解できる1.7 いろいろな語彙や表現を覚えよう2	読解：情報検索 例題2.7 聴解：よく聞くカタカナを覚えよう②
7	実践問題が理解できる1.8 いろいろな語彙や表現を覚えよう3	読解：情報検索 例題2.8 聴解：よく聞くカタカナを覚えよう②
8	実践問題が理解できる1.9 いろいろな語彙や表現を覚えよう4	読解：情報検索 練習6.4 聴解：言い換えの言葉を覚えよう
9	実践問題が理解できる2.0 いろいろな語彙や表現を覚えよう5	読解：情報検索 練習6.5 聴解：よく聞く表現を覚えよう
10	実践問題が理解できる2.1 いろいろな語彙や表現を覚えよう6	読解：情報検索 練習6.6 聴解：まとめ問題
11	実践問題が理解できる2.2 まとめ問題をやってみよう1	読解：情報検索 練習6.7 聴解：総まとめ問題1
12	実践問題が理解できる2.3 まとめ問題をやってみよう2	読解：情報検索 練習6.8 聴解：総まとめ問題2
13	実践問題が理解できる2.4 まとめ問題をやってみよう3	読解：情報検索 練習6.9 聴解：総まとめ問題3
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	完全マスター読解N1 日本語総まとめN1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	日本語資格対策Ⅳ		（ NKT24M ）
講義名（コード）	日本語資格対策Ⅳ A		（ NKT24MA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	古風な表現を使った小説や論説文、やや専門的な説明を理解できるようになる
全体の内容と概要	日常生活はもちろん交渉をしたり様々なやりとりができるような文法と語彙を学ぶ
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	や古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を説いて登場人物	文法：～かと思いきや ～んがため ～のごとく 文字語彙：文脈規定15回
2	や古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を説いて登場人物	文法：～にして ～だに ～～だにできなかった 文字語彙：文脈規定16回
3	や古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を説いて登場人物	文法：～かねる ～を限りに CHECK 文字語彙：17回
4	や古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を説いて登場人物	文法：まとめの問題 文字語彙：文脈規定17回
5	の内容や発話者の意見が理解できる1	文法：～からいる ～にかかわる ～にあって 文字語彙：文脈規定18回
6	の内容や発話者の意見が理解できる2	文法：～ようによって（は） まとめの問題 文字語彙：文脈規定19回
7	んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できる1	文法：～べからず ～のみ ～がゆえ 文字語彙：文脈規定20回
8	んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できる2	文法：～と相まって ～にかたかない 文字語彙：言い換え類義1回
9	んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できる2	文法：～としてあるまじき ～ずにはすまない 文字語彙：言い換え類義2回
10	んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できる3	文法：～でなくてなんだろう ～極まりない 文字語彙：言い換え類義3回
11	んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できる4	文法：～を禁じえない ～にたる 文字語彙：言い換え類義4回
12	んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できる5	文法：～べくもない ～なくして 文字語彙：言い換え類義5回
13	んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できる6	文法：CHECK 文字語彙：言い換え類義6回
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ドリル&ドリルN1文字語彙 TRYN1
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園 専門学校長野ビジネス外語カレッジ

2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	キャリアデザインⅣ		（ NKT24Q ）
講義名（コード）	キャリアデザインⅣG		（ NKT24QG ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティーコース	単位数	2
授業担当者		時間数	30
成績評価教員	高木 良幸	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会＆面接会参加（WEB含む）
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容の理解	【オリエンテーション】講師紹介後期の内容について説明、心構え 【演習】進路調査 Cam-J 進路希望、希望職種、ガイダンス予約
2	インターンシップの振り返りができる	【インターンシップ】インターンシップについての復習 【演習】インターンシップの反省キャリア面談、応募先企業シート作成
3	就職活動スケジュールが理解できる	【就職情報説明】就職活動スケジュール、必要書類、スキル、準備物 【演習】キャリア面談 応募先企業シート作成
4	就職活動の計画が作成できる（１）	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
5	就職活動の計画が作成できる（２）	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
6	就職活動の計画が作成できる（３）	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
7	在留資格制度、申請について理解できる（１）	【在留資格】就職在留資格制度、特定活動について説明、必要書類説明 【演習】在留資格変更申請書記入、準備物確認
8	在留資格制度、申請について理解できる（２）	【在留資格】就職在留資格制度、特定活動について説明、必要書類説明 【演習】在留資格変更申請書記入、準備物確認
9	就職内定先企業への提出書類について理解できる（１）	【内定書類】就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
10	就職内定先企業への提出書類について理解できる（２）	【内定書類】就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
11	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。（１）	【研修】研修の目的、研修内容、研修への関わり方 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
12	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。（２）	【入社前研修】入社時書類、労働条件（給料、時間、休日、勤務地） 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
13	日本企業の仕事について理解できる。（１）	【日本の企業】１日、１か月、１年間の仕事の流れ 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
14	まとめと対策	【テスト】記述式 【テスト】回収
15	まとめと対策	【テスト返却】フィードバックと解説 【振り返り】講義の振り返り、まとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	留学生：『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク） 日本人：就職内定基本テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）
参考文献・資料等	
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	Webマーケティング実践IV		（ NKT24T ）
講義名（コード）	Webマーケティング実践IVG		（ NKT24TG ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	敦賀 由美子	時間数	30
成績評価教員	敦賀 由美子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	デザインツール「CANVA」を使用し、動画作成の基本を学び、視覚的に魅力的で効果的なショート動画を作成するスキルを身につける。
全体の内容と概要	CANVAを使用して、アニメーション・フォトムービー・動画の基本的な制作方法を学び、企画、撮影、編集したセルフプロデュースショート動画の制作に取り組む。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	基本操作の復習	SNS投稿画像とキャプション制作
2	アニメーション効果の習得	フェードイン、スライドイン、パン効果、タンブル、ストンプなどの効果を使用したショート動画の制作
3	アニメーション効果の習得	フェードイン、スライドイン、パン効果、タンブル、ストンプなどの効果を使用したショート動画の制作
4	ショート動画の作成	ニーズに合わせ、拡散効果を付加したSNS投稿用ショート動画の制作
5	ショート動画の作成	ニーズに合わせ、拡散効果を付加したSNS投稿用ショート動画の制作
6	セルフプロデュース ショート動画①素材撮影	街や観光名所を撮影する（動画・静止画）
7	セルフプロデュース ショート動画②企画	撮影した素材に合わせて動画のストーリーを企画、絵コンテ、キャプションを考える
8	セルフプロデュース ショート動画③動画制作	企画に沿って動画を制作
9	セルフプロデュース ショート動画④BGM・効果音	動画に合わせて音を挿入する
10	セルフプロデュース ショート動画⑤サムネイル画像	サムネイルが与える動画への効果を学び、動画を完成させる
11	セルフプロデュース ショート動画⑥発表	セルフプロデュースショート動画の発表と評価・感想
12	セルフプロデュース ショート動画⑥発表	セルフプロデュースショート動画の発表と評価・感想
13	期末テスト	成果物制作
14	期末テスト	成果物制作・提出
15	フィードバック	テスト内容に関するフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Canva 基本&デザインTIPS！ 無限に役立つ使いこなしワザ152 技術評論社
参考文献・資料等	①世界一やさしいCanva 無料で使えるデザイン作成ツールガイド インプレス ②ちなみにそれ、Canvaでできます！ インプレス
備考	